

# 週刊文春様

突然の便りを失礼致しませう。

私は貴誌の一読者ですが、ここところ騒かれています。近藤誠氏と長尾和宏氏とのサルカニ合戦の折紙記すを毎日、近藤氏への怒りをおく拝読して存じます。文春様は両氏の取材を本に記すにしておられました。近藤氏の速者に接する素顔を作者としてしうか。それはセカントオピニオンという名の足元にも及ばぬとりつく島のほい手と尽しても救われまい、心はいそいそ命の告知の場ではあります。あくまでも個人の体験談ではあります。

実は、私の夫が今春、膀胱ガンと診断され。

東京医科大学病院にて内視鏡手術。すよんBCGの治療を受け、早期だったから、すっかり完治したのか。何分にも膀胱ガンは再発、転移しやすいがこと言われる通り、四カ月前、腎盂とリンパにまでなる影があると

言われ、C.Tの結果、抗ガン剤治療と摘出手術を受けると  
結果になりました。その時、たまたま近藤氏の事を確証で  
知った私は、何とか抗ガン剤や手術をせずに治す可  
はできないうまいという一心でセカンドオピニオンを  
受けるため、近藤氏の居る慶応病院を訪ねました。  
その時の予約の電話も「近藤先生はとてお忙しう  
二カ月前もといっぱいで」と受付で一度はすなりと  
断られました。たが、夫の知らせで試みにもう一度電話を  
すると、幸か不幸か今度は「今一かたキャンセルが来る  
たので明朝一番なら」という返事で、急でいたが、  
夫とふたり、翌朝一番のりで病院に生向いたのです。  
待ち時間もなく、すぐに呼ばれ、地下の薄暗い部屋で  
近藤氏にお会いしました。これまで流れと現状、  
東京医大で抗ガン剤治療と手術を受ける事になっ  
ているか、早稲田といかに一番良い方法なのか迷っている

ことを伝えると氏の第一声は

「そんな事では来たのか」抗がん剤はやうでもやうなくとも

寿命は同じ」と吐き捨てるようにはいと言、この砂漠

のように乾いた言葉に耳を疑い心に凍りつきまじった。

近藤氏には「まあなる」「えんはする」でも、苦みの狭間で

患者達は「そんなこと」で必死に先生に縋るのです。

遙々訪ねて交わった会話はそれだけ。「抗がん剤は

やってもやらなくても寿命は変わりません」と書いた紙と

や自分や本の病院の売店で売られてゐるから買って読む

ように。三月に青山に自分の病院（セカンドオピニオンのみ）

を開設するのでもっとよく診てもらいたい人はそこへ来

れば時間を取ります云々というふうな紙を数枚

渡さねすした。結果、宣伝ばかりをされた形で、私は

こんな人にわざわざ会いに来たのか、と思うと情けなく

夫を連れて来てしまった事を非常に後悔しました。

極めつけ「先生の市本は揮毫させていたいまうた」と  
 申し上げた時、信じられないう言葉が返って来たので、  
 「ああ、あれは名前を売るため」とぬけくと笑い  
 ながら、近藤氏がお母さんになつてゐる沢山の市本は  
 決してせのため、患者のためではなく、あくまでも  
 市自分のおトクを、名誉を得るための手段で、か  
 ねいのかもしれるせん。お目にかゝる昨日まで、患者の  
 立場になり、命を救う事に懸命になられてゐる医師と  
 して尊敬申し上げてゐた私と夫は愕然とし、五分も  
 せぬうち、逃げるように診察室を後にしてしまふ。  
 近藤氏の市機嫌が良くはなかつたのか、いつも女のねな方  
 なのかわかりませんが、私が前日に予約が取れた事も  
 面白くなかつたのです。「フーン、昨日予約が取れたの……」  
 と何故か不満な様子で「自分には本当はこんな  
 簡単に会えなかつた」という心の声か聞こえて来るよう  
 でした。

何の私達が失礼な事でもしましたか？ 近藤さん  
何様ですか？ そんなに偉い人には見えませんけれど……  
セカンドオピニオンとこの不快さを金で買う  
つもり一杯でした。

たまたま人と違う見解を世に発表してマスコミや  
著名な有名に呼ばれた人間の本性を見た感じだ。また  
一株の希望を打って足を運んだ夫が家の裏で泣きまわった  
私達には難し……事柄は何もわかりません。……確定に  
言えるのは医師と患者を信頼……こと。……たまたまとつ  
命を委ねられるということ。今となってはこんな人間として  
心の欠片もない人か何故先主と言われ世に罷り  
通っているのかわかりません。私自身もある時期  
変な宗教のような近藤氏の言葉に洗脳され  
無礼にも巨大の担当医師に「放置」という方法ほ……？  
と伺った。……ある……「今年今や病状にもより

まず、高島さんには選択肢はあります。早い方か  
良いですよ！と即座に言い切られました。事実、  
先生がお母さんになった紹介状を持つ近藤氏を  
訪ねた患者さんの多くが治療を受けに度々来られ  
るのだそうです。

その方に夫は、もう抗がん剤治療を受け、予定を  
終了した時にはがんが見えなくなるといふことになり、あとは  
消えていくように。副作用がほとんどなかったことも幸いして  
今では大変ええ氣に過ごして居る。あとは摘出手術を  
待つこの頃です。これも偏に親身になってガイド  
ラインに添った治療計画を練り、家族のように寄り  
添って下さった先生方の努力に他なりません。

206  
近藤医師のすべてを否定するのはありません。  
しかし、大そうお氣にのりの言葉。『がんもときどき  
もやほ（お通書人）の判断するべきものではなく、きちんと

専門医を訪ねるべきです。

何故なら近藤氏は

あれこれ好き勝手なるを真しやかにいつく言いつ

いてもセカンドオピニオンや、という微妙な立場、故に

最終的には何も責任を付てくれない誤りは無いし、

許されるのだ。治療もせず放置するのが良いたと

信じ、結果、とり返すに成り、元々一つあったら

それは本物のガンだったと言うのでしよう。長尾医師の

おっしゃる「あとまじジャンケン」は実に的を射てよう。

よくも言っておきた。と留飲の下りる思いです。

早期発見が命を縮める、など考えられませんか。

かこという病を抱え、あれこれ悩み、ワラをも掴み思

て先を求めつゝ多くの患者さん達か、どうか、放置など

という不確かな選択で命を落とすことなどありません。

声を大にして言いたいです。近藤氏はそのワラミ

抗ガン剤であり、ワラをつかんで溺れ死んで行く、治療を

受けた者は抗がん剤や手術で後悔を招く所とと  
驚くばかりの持論を展開され、おりますが、現に夫は  
近藤氏が「ワラ」と呼ぶ化学療法之恩恵に与り、  
永共夫婦に感謝こそあれ、微塵の後悔もありません。  
本当に不幸なのは間違、た選抜です。「羊の皮を着た  
オオカミ」とは地位と名誉が人の命よりも大切な近藤氏  
が自身に他を知らず、この下は……と、記すを讀み、思ひす  
笑つてしまつた。

幸いなるに、私のまわりには早期発見で治療を受け  
今は元氣に活躍している友人。知人が沢山おりますが、  
何よりもの救いになってゐます。

黙つて居られず、思ひつくま、いろ／＼と連ぬまゝに  
無氣をふり捨て、読み捨て、ただければ幸ひです。  
は、社の益々の発展をふり、つたゝります。